

歓声こだま「穂谷祭」多彩な催し



穂谷の里に秋の訪れを告げる穂谷祭が10月30、31の両日、穂谷キャンパスで開かれた。2日間とも絶好の秋晴れに恵まれ、地域の人も学生らの多彩なパフォーマンスを楽しんでいた。



谷本理事長

秋の褒章で、谷本榮子理事長が藍綬褒章を受章した。大阪府労働委員会委員として

15年間、労働行政に貢献 全国初の女性使用者委員

谷本榮子理事長が藍綬褒章受章

の15年余にわたる労働行政への貢献が評価された。

谷本理事長は11月16日、東京での伝達式で長妻昭厚生労働大臣から褒章を受けた後、皇居で天皇陛下に拝謁した。また、11月12日、東京の中野サンプラザで開かれた全国労働委員会連絡協議会総会で、勤続15年の永年勤続表彰を受けた。

谷本理事長は平成6年2月、女性としては初めて、府労委の使用者委員に就任し、労働争議の調整や不当労働行為救済申立事件の解

決に尽力してきた。現在8期目。平成14年3月から6年間は、府労委の運営委員も務めた。

府労委は、谷本理事長の功績について「関西外国語大学の経営者として具備した高潔な人格、豊富な経験や高度の判断力・調整力・実行力をもとに、諸問題の解決に全力を挙げて取り組んでこられた。また、運営委員として公益委員・労働者委員との連絡調整等、当委員会の円滑な業務運営に尽力され、労使関係の安定に多大な貢献をされた」としている。

メイン会場の第2グラウンドでは、ビンゴゲームやお笑い芸人のライブなどが開かれ、地元で獲れた有機野菜を販売する店や中国人留学生が出店した中国風チジミの店など40近い模擬店が並んだ。さらに円形ステージでは音楽系クラブの生演奏、万代池のそばでは茶華道部のお手前も披露された。

中国人留学生らは「中国の大学では、といった模範店が並んだイベントもないし学園祭も初体験。興奮します」と喜んでいた。

中・長期ビジョン 「関西外大ルネサンス2009」完成

本学の今後のあり方と具体的な行動指針を掲げた中・長期ビジョン「関西外大ルネサンス2009」が10月29日の理事会で承認された。「将来構想検討委員会」(委員長・谷本義高大学学長、17人の答申を受けたもので、日本語と英語のパンフレットを作成した。今後、個別のアクションプランを策定、実行していくことで、大学力の強化をめざす。

(3面に関連記事)

ホームカミングデー・同窓会総会 (11月22日、中宮キャンパス谷本記念講堂)

第1部	11:00-	開会(司会FBS) ファンファーレ(吹奏楽部) 学歌斉唱(ラベリテ)
	11:02-	歓迎挨拶 谷本榮子関西外国語大学理事長
	11:07-11:15	役員選出、規約制定、会計報告(事務局)承認
第2部	11:25-	開会(司会 熊本麻美さん [本学卒業生]) 漫才 ますだおかだ [本学卒業生]
	11:45-	トークショー(司会 熊本麻美さん) ますだおかだ
	12:05-	チャリティー一部演技
	12:10	閉会
14:00-14:30		吹奏楽部コンサート(指揮:4年山本美奈子さん、3年篠原由衣さん) 『コミカル☆バード』『プラトンの洞窟からの脱出』 『アメイジング・グレイス』『ものけけ』
16:00		終了

最終回 (4-6面)

ひと燦々
さんさん

卒業生たち
はいま

また会場では、ごみの分別収集を徹底し、ペットボトルのキャップでモザイクアートをつくりエコをPRした。

万代池

皆さんは「アレクサンダー・テクニック」というものをお聞きになったことがあるだろうか。これは筋肉の無用な緊張に気づき、変な癖をなくして身体を合理的に使う方法のことである。たとえば歯を磨くとき、首の筋が浮き出るほど力が入ったり、デスクワークのとき、首をすくめた姿勢が続いていたりしないだろうか▲19世紀のある日、オーストラリアの舞台俳優であったフレデリック・M・アレクサンダーは、突然声が出なくなりました。自己分析の結果、不要な筋肉の緊張が声帯を圧迫しているのが原因だとわかった。彼は頭・首・背骨のバランスの取り方を理論化し、それを自分の教室から広め、指導者を養成した。彼

松田 健

外国語学部教授

の知恵は現在も欧米の舞台人と演奏家を中心に支持されている▲私も在米中にアレクサンダー・テクニックの個人レッスンを受けていたことがあり、その間は肩こりなどが劇的に改善したのを覚えている。指導者の方に歩き方を診てもらったり、自分の身体にとって適正な背骨や頭の位置を教してもらったりする。意識改革なのでマッサージはない。ちなみに宗教色も一切ない▲全身を弛緩させるのではなく、頭を垂直にもちあげ、背骨は自然な曲線を持続するのである。ある曹洞宗の僧侶の方にこの話をしたら、「それは座禅の姿勢と共通している」とのことだった。なんとか無駄な力を使わない生き方に応用できれば、と思う。

Campus Calendar

キャンパスカレンダー

November	11月20日(金)~22日(日)	外大祭
	11月22日(日)	ホームカミングデー・同窓会総会
	12月 2日(水)	大学院入試説明会
December	12月18日(金)	留学生別科授業終了
	12月19日(土)	第1回航空ガイダンス
	12月19日(土)	オープンキャンパス(中宮)
	12月22日(火)	授業終了
	12月25日(金)	仕事納め
January	1月 6日(水)	授業開始
	1月16日(土)、17日(日)	大学入試センター試験
	1月25日(月)	秋学期授業終了
February	1月28日(木)~2月6日(土)	秋学期末試験
	2月 7日(日)~9日(火)	一般入試前期日程(合格発表=16日)
	2月 9日(火)	3年次編入学試験
	2月19日(金)、20日(土)	大学院入試(合格発表=22日)
	2月23日(火)	第2回航空ガイダンス

中宮キャンパス(大学院・大学・短期大学部)
〒573-1001 大阪府枚方市中宮東之町16-1
TEL. 072(805)2801

穂谷キャンパス(大学)
〒573-0195 大阪府枚方市穂谷1丁目10-1
TEL. 072(858)0021

関西外国語大学

大学院	外国語学研究所	英語学専攻博士課程前・後期	関西外国語大学短期大学部	英米語学科
外国語学部	英米語学科	言語文化専攻博士課程前・後期		
留学生別科	スペイン語学科			
国際言語学部	国際言語コミュニケーション学科			
中国交流センター				

関西外大の最新ニュースはホームページにも掲載しています
<http://www.kansai.ac.jp/>

就活には両親の支え必要

保護者「就職懇談会」に1200人

来春の大学生新卒採用状況が依然厳しい見通しの中、大学2、3年生と短大部1年生の保護者を対象にした保護者「就職懇談会」が10月10日、中宮キャンパスの谷本記念講堂で行った。

第1部では、中宮キャンパスから約1200人が参加したII写真。午後1時から始まった第1部では、中宮キャリアセンター所長、森川長俊・外国語学部教授が「個別相談を基本に年6回の就職ガイダンス、本学独自の航空ガイダンスなど多種多様なプログラムを用意し、学生の自立を促し、夢が実現出来るように支援しています」とあいさつ。続いて株式会社デイスコの北井洋二さんが「最近の就職環境と求められる人材像」を親子で考える「就職活動」と題して講演。就職マーケットが大きく変化している現状を説明。企業が求める人材について「コミュニケーション能力が最も重要視されていますが、最近ではストレスに強い人も求められています」と話す一方で、就職活動には、両親の協力が「何より必要」と訴えた。

第2部では、大学が同講堂、短大部がマルチメディアホールにそれぞれ保護者が分かれ、就職が内定している学部4年生と短大部2年生の各3人が、いかに就職活動を行い、内定を取り付けたかを発表した。



この後、中宮キャリアセンターの本明さんと桐谷利信さんが2会場それぞれで本学の就職支援体制と実績について発表した。

2010年度の公募制推薦入試が11月14、15の両日、中宮キャンパスのほか、名古屋、広島、福岡3市の地方会場で行われたII写真は広島会場。本学の地方入試は初めて。出願者は2日間合計で大学が5016人、短大部791人。前年度に比べ、大学は43人増加し、短大部は60人減った。合格者は21日に発表される。

大学の出願者の内訳は、外国語学部が4098人(英米語学科3453人、スペイン語学科645人)で、国際言語学部が918人。前年度比では、外国語学部英米語学科が314人、スペイン語学科が76人増えた。国際言語学部は347人減少した。

地方入試の出願者は大学、短大部を合わせ、名古屋会場(秀英予備校名古屋校)が249人、広島会場(広島YMC

初の地方入試実施

公募制 推薦入試 5807人が出願

1シヨン能力が最も重要視されていますが、最近ではストレスに強い人も求められています」と話す一方で、就職活動には、両親の協力が「何より必要」と訴えた。

ター職員ら教職員35人が順番待ちする保護者約170人の相談に応じた。(10面に関連記事)



行われる。一般入試前期日程では短大部を除き、今回同様、名古屋、広島、福岡で地方入試を実施する。

1050人が合格 特別入試

指定校推薦など2010年度の特別入試が10月18日、中宮キャンパスで行われた。受験生のうち、7人は新型インフルエンザで欠席、31日に受験し、大学、短大部合わせて1050人が合格した。

合格者の内訳は、大学が指定校581人、英語特技29人、特技A51人、特技B36人、帰国生徒13人の710人、短大部が指定校338人、帰国生徒2

テーマは「学士力の保証」

中宮で全国外大学長会議

全国の7外国語大学の学長が一堂に集い、外大の抱える問題を話し合う全国外大学長会議が、10月9日、中宮キャンパス本館で開かれた。本学で外大学長会議が開かれるのは、2002年10月以来7年ぶりで、7学長は「学士力の保証について」をテーマに各大学の取り組みを説明した。

出席したのは、亀山郁夫・東京外国語大学学長、赤澤正人・神田外国語大学学長、水谷修・名古屋外国語大学学長、堀川徹志・名古屋外国語大学学長、木村榮一・神戸市外国語大学学長、池田紘一・長崎外国語大学学長に、本学の谷本義高学

長。学長以外にも副学長や事務局長らも加わり、補足説明を行った。

まず、当番校の谷本学長が本学の入学前教育、初年次教育、キャリア教育について基本的な方針を話し、続いて澤田治美英米語学科長、林美智代スペイン語学科長、森一貫国際言語学部長がそれぞれの学部、学科の教育を発表した。このあと、東から6大学がそれぞれの取り組みを話した。

質疑応答では、外国語学部の中に国際教養学科を新設する場合、総合大学の同様の学科との違いをどう出するか、などの問題が指摘された。また、東京外

大や長崎外大が卒業生のネットワークを組織し、就職支援の協力を求めていることを明らかにし、注目された。



外大学長会議であいさつする谷本義高学長

提携校は327大学に

米のウエズリアン大と協定

アメリカ・バージニア州のバージニア・ウエズリアン大学と単位互換協定が結ばれ、本学の海外単位互換提携校は50か国・地域の327校となった。

1961年、大西洋に面したノーフォーク市にメソジスト教会が設立した。学生数は約1400人、その半数は学内にいる寮で生活。少人数のリベラルアーツ教育をモットーにしており、学生と教員の比率は13:1となっている。文化交流、サマリー・コースなどの国際交流に力を入れているが、アジア地域との本格的な交流は本学との提携が初めて。



提携が初めて。

3年次編入学試験

495人が挑む

本学の3年次編入学試験が11月15日、中宮キャンパスで行われた。合格発表は21日。

出願者は外国語学部425人(英米語学科424人、スペイン語学科1人)、国際言語学部70人の計495人。前年度に比べて36人の減だった。

三重の松阪商高生が 外国人留学生と交流

高校の本学訪問は23校目。三重県立松阪商業高校の国際教養科1、2年生65人が10月24日、中宮キャンパスを訪問し、留学生別科で学んでいる外国人留学生21人と交流した。

教員4人が引率しバス2台で来学。生徒は国際交流センターで7教室に分かれ、留学生と日本語や英語で将来の夢などについて話し合った。

日本語の難しさを聞かれたエイプリル・マイナーさん(米国ウイバ州立大学)は「授業で、スペイン語やイタリア語」と言うところを、スペイン語やイタリア語と間違えてしまった。オオサカ、ツヨイ」と言ったら不思議そうな顔をされ、オオサケ、ツヨイ」が正しかった」と答え、笑い声に包まれた。

学生食堂で留学生と昼食をともにした後、会場を移してキャリアセンターの担当者から本学の就職状況を聞き、キャンパスも見学した。

高校による本学見学は4月以降、23校目。前年度は1年間で29校が訪れた。今年度はそれを上回りそうだ。

外国語学部「エアポートビジネス」

空港研修で新たな取り組み

夏休みを利用して集中講義実施

今年度から始まった外国語学部の総合科目「エアポート・ビジネス」(対象は2年生以上)は、わが国で初の空港に関する科目です。夏休みを利用して集中講義のため、連続して時間を確保できることから、9月16日に1日かけ神戸空港、関西国際空港、航空保安大学校の現場視察研修を行いました。



その後、高速船ベイシャトルで関西国際空港へ。関空では空港会社の経営するラウンジを見学し、接遇の極意についてレクチャーを受けました。次に

堀井、池尻名誉教授 瑞宝中綬章を受章

平成21年度秋の叙勲で、本学名誉教授の堀井令以知さん(83)、池尻久和さん(71)の二人に、瑞宝中綬章が授与された。11月9日、堀井さんは和子夫人、池尻さんは吟子夫人を伴い、午前中、千代田区の国立劇場で勲記・勲章を伝達され、午後、皇居で両陛下に拝謁した。



池尻名誉教授 池尻さんは大阪府議会議員を通算

堀井名誉教授 堀井さんは京ことばの研究で知られ、多数の著書がある。

堀井さんは1978年、本学教授に就任、大学院研究科長や理事を歴任、本年4月名誉教授となった。専門は言語学。大阪ことば、京ことばの研究

教育研究年報第4集発行

本学の教育と研究の現状を自己点検し、今後の改善に繋げることを目的とした「教育研究年報第4集」(平成20年)が刊行された。

平成17年度に出した第3集は、「国が認定した第三者評価機関による点検・評価」のため、大学は「大学基準協会」、短大部は「短期大学基準協会」に提出し、点検・評価を受けた。第4集では、このときの認証評価で、両基準協会から「改善を要する」とされた項目等についての本学の取り組みも詳しく記述している。今回は7年ごとの第三者評価の中間年で評価対象ではないが、両基準協会には参考に送付した。本学ホームページの大学案内から縦覧できる。

6期務めた。1966年本学講師、82年教授、2008年名誉教授。『日本の政治』などの著書がある。

関西外大入行動憲章

【学の研鑽】

わたしたちは、専門の語学、言語はもとより、多様な学問分野において常に研鑽を積み、知識基盤社会の構築、発展に寄与します。

【国際人としての自覚】

わたしたちは、地球社会の一員であることを常に自覚し、異なる文化の尊重と共存、相互理解を推進します。

【国際貢献】

わたしたちは、国際社会の平和と安全、繁栄と共生に向け、地球規模の課題克服に取り組めます。

【人間力の涵養】

わたしたちは、個としての健全なる自我の確立とともに、社会的存在として全人的な資質の向上を図ります。

【地域参画】

わたしたちは、自らの知識や能力、ならびに大学の教育資源を生かし、拠って立つ地域の文化的、教育的発展に貢献します。

中・長期ビジョン・キャッチフレーズ 「キャンパスはちきゅうぐ」

本学の中・長期ビジョン「関西外大ルネサンス2009」は、少子化とグローバル化が進むなか、5年先、10年先を見据えて作られた。具体的な今後の指針となる「外大ビジョン・6つの柱」をメインに据え、キャッチフレーズには「キャンパスはちきゅうぐ」を選んだ。

社会の変化をにらみ、一層の言語運用力のアップとともに、キャリア形成、地域参画の重視を前面に打ち出した。また、海外からの留学生や卒業生らを含めて、本学に集う全員が常に心掛けるべき「関西外大入行動憲章」も初めて制定している。

これまで、学生はキャンピングアテンダント、グランドホステスといった旅客の目につきやすい職業を身近に感じていたようですが、空港内で乗客の案内、接遇を行うエアポート・コンシェルジュ

ユ、グランドハンドリング、管制官といった航空輸送を支える裏方の仕事に対しては意外と自分の身近にあることに気が付いたようです。(外国語学部非常勤講師・引頭雄一(株)日本空港コンサルタンツ執行役員)

カナダ大使館出前授業 多文化国家を学ぶ

カナダ大使館から講師を招き、多文化国家・カナダの魅力を学ぶ出前授業が10月30日、中宮キャンパスのマルチメディアホールで開かれた。この日は同大使館広報部の金尾紀久枝さんが講師を務め、カナダへの留学希望者ら150人を前に、多民族、多言語を認めるようになった背景を説明。フランス

が植民地化した後、独立に至るまでに言語、宗教、法律などの多様性を許容するようになった歴史から説き起こし、「アメリカとよく似た国だが、国民性、気質は違う」と紹介した。金尾さんは企業に就職した後、フランス・ニース大学に留学。1999年からカナダ大使館の広報担当業務に就いている。講演で金尾さんは多民族国家を象徴するテーマとして、「カナダは立憲君主制。国家元首はイギリスのエリ

ザベス2世で、国内では総督が代理を務めている。現在の総督はハイチ難民出身の女性。前総督も香港からの移民女性だった」と話した。学生の質問も多く、「フランス語がよく話されている地域は?」(外国語学部1年男子)との問いに、金尾さんは「地域差がある。フランス語が公用語なのはケベック州とニューブランズウィック州。また、バンクーバーでは中国語もよく話されている」と説明した。

PICK'UP!!

「カザルスの生涯と芸術」 チェロ・ピアノ演奏に講演

本学の公開講座「カザルスの生涯と芸術」が11月6日夕、中宮キャンパス・マルチメディアホールで開かれ、学生や市民ら約400人がチェロ演奏に革命を起こしたと言われるパブロ・カザルスをしのび、外国語学部の松田健教授の「お話とチェロ」、奥戸雅子さんのピアノに酔いしれた写真。



松田教授がチェロを習った5人のうちの一人がカザルスに師事しており、孫弟子に当たることから公開講座が実現した。カザルスが国連総会議場で演奏したバッハのチェロソナタ第2番で開演、松田教授の「チェロについて」「カザルスの人生」などの話や、レッスン中の映像、ホワイトハウスでの演奏録音などを交えながら、カタロニア民謡「鳥の歌」(ベートーベン「チェロソナタ第2番」などを次々に演奏、映画「おくりびと」のテーマ、滝廉太郎「荒城の月」、山田耕筰「この道」など日本の歌曲でしめくくった。

メキシコ作家ら招き ラテンアメリカ文学講演会

メキシコの小説家アルベルト・ルイ・サンチェスさんと詩人コラル・ブラチヨさんを招き、11月4日、国際文化研究所主催の講演会「ラテンアメリカ文学における新しいイマジネーションの傾向」が中宮キャンパスの多目的ルームで開かれた。二人による自作の朗読のあと、1時間におわたって活発な討論が行われた。小説におけるエロティックな表現は手の描写によって可能であるとか、詩とは思考の水路であり、言葉が持っているイマジネーションは次に発せられる言葉によってさらに新しいイマジネーションを生むなど、集まった大学院生、学部学生、一般市民に大きな知的刺激を与えた。(スペイン語学科教授・田尻陽一)

英語劇「クリスマスキャロル」 市民や学生ら千人が堪能

英国の劇団「インターナショナル・シアターカンパニー・ロンドン」(ITCL)の英語劇「クリスマスキャロル」が国際文化研究所主催の公開講座として11月4日、中宮キャンパスの谷本記念講堂で上演され、枚方市民をはじめ留学生や学生、教職員ら約1000人が2時間半の舞台を堪能

ひと燦々 卒業生たちはいま 最終回

2回目のホームカミングデーが11月22日、中宮キャンパスで開かれる。外大祭と同時に開催のため卒業生と在

嘘の露見

作家、直木賞受賞

難波 利三さん

昭和33年(1958)の春、島根県から大阪へ出てきて、当時、東住吉区田辺にあった英友寮で暮らし始めた。親からの仕送りがなためアルバイトに明け暮れる毎日、希望に燃えて入学したはずが、いつの間にか勉学への意欲が薄れ、バイトが主になる本末転倒の有様だった。

大学から何度か呼び出され、真面目に勉強するよう、親身になって諭された。だが僕にはもう聞く耳がなかった。享乐的な都会の水に溺れ、結果、関西外国語短期大学を中退する羽目になった。田舎の親には長年、そのことを隠していた。ところが昭和59年(1984)、直木賞をもらったとき、僕の略歴が新聞に掲載された。帰省した折、母が突き出した切り抜きには「関西外国語短期大学中退」と書いてあった。

「卒業したとばかり思っていたのに、これはどういうことかね」と問い詰められ、僕は返事に窮した。思わぬところが嘘が露見した。

僕は卒業できなかったが、あの学園生活で学んだものは沢山あり、人生に大いに役立っている。良くも悪くも、あの頃が自分の青春真つただ中だったの



学生が交流する絶好の機会。そこで今号の「ひと燦々」はジャンルを問わない同窓生特集とし、各界で活躍す

だと懐かしく思い、それらもつまりは関西外国語短期大学に入学したお陰だと感謝している。

(関西外国語短期大学1958年入学)

後輩たちへ

貿易業(スペイン在住)

白石 和幸さん



私はスペインが好きだからスペイン語を選択したのではありません。小さいころから外国語をマスターしたいとの夢があったからです。英語は誰でもしゃべっている。では、次に重要性のある外国語は？と

考え、スペイン語を選びました。外大を卒業しても十分にしゃべれないようでは卒業した意味が無いと思い、3年次に自費でスペインに留学しました。卒業後、大阪でサラリーマンを経験

しましたが、スペインへの思い断ちがたく、パレンシアで家具や照明器具などを輸出する企業を立ち上げ、今に至っています。在住して延べ35年になり、スペインでの生活の方が長くなりまし

た。振り返れば、ネイティブ教員の授業や留学生との交流など、関西外大にいたからこそ、今の自分があると思っています。

異文化の中で長年生活してきて感じるのは、スペイン人から見れば、いつまでたっても私は日本人だということ。大事なこと人間形成です。いくら言葉がうまくても人間的に魅力が無ければ、受け入れられません。後輩に言いたいのは、語学の修得は、

卒業生らに、在学時の思い出や学生たちへのメッセージなどを寄稿していただいた。

社会の中でコミュニケーションするた

め手段であって、目的ではないという事です。きちんと外国語がしゃべれるようになって卒業してください。そして、少なくとも2か国語を話せるように努力してください。言葉には、しやべる人の人間性が宿ります。人間を磨くことが何より重要です。

(外国語学部スペイン語学科76年卒)

人生の原点

ちゃんばらコントグループ主宰

寺井 弁之介さん

もともと英語が好きで、英米語学科に入学しました。そして、英語を学ぶうちに音声学に興味をもちました。それならば日本語の発音も極めたいと思うようになり、アナウンサー学校へ。発音・アクセント・朗読・芝居などのレッスンを受けてきました。

そして、興味は芝居に転じて、劇団「新春座」に入団しました。多くの先輩がテレビや舞台で活躍し、僕も殺陣(たて)の稽古に明け暮れる毎日でした。

就職を機に退団しましたが、好きなちゃんばらはやめられず、その後サラリーマンをしながら、ちゃんばらコントグループ「PPPカンパニー」を立ち上げました。今では大阪のちんどん屋でも活動し、殺陣教室も開いたりして、現在に至っています。

卒業こそしませんでしたでしたが、外大には6年在籍しました。僕にとっては思い出深い青春の場所であり、好きなこととことん探し

た時代でした。振り返ってみると、僕これまでの人生の原点であったようにも思います。いつか海外公演を目標に「英語ちゃんばら」に挑戦してみたいと思っています。僕もまだまだこれからが勝負です。(本名・寺井 敏幸)

「外国語大学の使命」

ダイバーシティ・マネジメント研究所社長

河谷 隆司さん



ここ数年の間に、あるプロジェクトで世界18都市の日系企業を訪れ「日本人リーダーへの期待行動」について80人の現地人幹部にビデオインタビューを行った。浮かび上がった行動原理は「対話型リーダーシップ・プロセス」。「意味を伝える・相手を巻き込む・違いを尊重する」など5つの柱から成るのだが、日本人赴任者にとってこの実践が難しい。

建設会社のシンガポール人は「Japanese is a strong ego person. It takes time to melt him down.」と言

放ち、シリコンバレーの米国人人事課長は、日本人赴任者を前に「相手が拒絶しているのに、皆さんはPUSSHしない。なぜPULL(引き出す)がないのですか」と声を張り上げる。

多様な価値観(Diversity)という人間存在の根幹に向き合い、多国籍メンバーと一緒に共有された意味を紡いでいく。その能力が世界で求められている。ここに「外国語大学」の学生に与えられた独自の使命があると考える。それは決して、英会話に熟達することやアメリカ文化を真似ることではない。

多文化集団に自分独自の貢献をする。そのセンスと能力は既成概念の中にはない。関西外大とともに学び、それらのことに気付いてほしいものだ。

(外国語学部英米語学科78年卒)

▽2回戦	(2部リーグ2位)
●本学 1-2 大阪経法大	▽入れ替え戦
【女子全日本大会出場決定戦】	(9月13日、東大阪アリーナ)
○本学 2-1 関西学院大	●本学 0-4 京都産大
(全日本選手権大会出場へ)	(本学は2部残留)
バドミントン部	
■関西学生秋季リーグ戦	
(9月6日~17日、大阪市立東淀川体育館ほか)	
【男子団体】	
○本学 4-1 大阪学院大	●本学 0-5 大谷大学
○本学 3-2 神戸大	●本学 2-3 帝塚山学院大
○本学 3-2 大阪体育大	●本学 1-4 兵庫教育大
●本学 2-3 京都大	●本学 1-4 関西福祉科学大
●本学 1-4 大阪大	●本学 2-3 大手前大
(本学は3部3位)	【女子団体(5部)】
【女子団体】	●本学 2-3 京都工芸繊維大
○本学 4-1 佛教大	●本学 1-4 花園大
○本学 4-1 神戸大	●本学 2-3 兵庫教育大
●本学 1-4 同志社大	○本学 4-1 京都大
●本学 2-3 武庫川女子大	●本学 1-4 京都教育大
●本学 1-3 神戸学院大	(女子は2部3位)
(女子は2部3位)	
卓球部	
■関西学生秋季リーグ戦	
(9月5日~12日、京都府立体育館ほか)	
【女子団体】	
●本学 1-4 関西大	○本学 76-61 立命館大
○本学 4-3 佛教大	○本学 61-49 天理大
○本学 4-1 大阪樟蔭大	○本学 59-41 大阪大谷大
○本学 4-1 華頂女子短大	○本学 93-73 園田女子大
○本学 4-2 武庫川女子大	○本学 66-63 大阪体育大
	○本学 75-72 武庫川女子大
	●本学 74-92 大阪人間科学大
	(本学は2位通過)
	【2次リーグ】
	●本学 51-72 大体大
	○本学 67-65 立命館大

ゴルフ部	
■関西学生選手権	
(8月4日~6日、名神東ゴルフ倶楽部)	
浅田光=15位タイ	
森川直英=61位	
片山雄貴=予選落ち	
少林寺拳法部	
■関西学生大会	
(9月27日、大阪芸大)	
【3人掛けの部】	
▽最優秀賞=中田雄大、阪上智晴、	
溝川栄造	
▽3位=外園朱乃、土谷未来、田中めぐみ	
【自由組演武男子3段以上の部】	
▽4位=三宅俊輔、山田優樹	
【自由組演武男子2段の部】	
▽5位=下村周平、佐伯勇人	
【単独演武女子有段の部】	
▽5位=小川里美	
穂谷	
硬式テニス部	
■関西大学対抗リーグ戦	
(9月19日~9月29日、シーサイドテニスガーデン舞洲)	
【女子の部】	
○本学 3-2 関西学院大	○本学 2-3 松蔭女子大
●本学 2-3 相愛大	●本学 2-3 園田女子大
○本学 3-2 立命館大	

バドミントン部	
■関西学生秋季リーグ戦	
(9月11日~10月27日、大手前大体育館ほか)	
【男子団体(6部)】	
●本学 0-5 大谷大学	○本学 76-61 立命館大
●本学 2-3 帝塚山学院大	○本学 61-49 天理大
●本学 1-4 兵庫教育大	○本学 59-41 大阪大谷大
●本学 1-4 関西福祉科学大	○本学 93-73 園田女子大
●本学 2-3 大手前大	○本学 66-63 大阪体育大
【女子団体(5部)】	○本学 75-72 武庫川女子大
●本学 2-3 京都工芸繊維大	●本学 74-92 大阪人間科学大
●本学 1-4 花園大	(本学は2位通過)
●本学 2-3 兵庫教育大	【2次リーグ】
○本学 4-1 京都大	●本学 51-72 大体大
●本学 1-4 京都教育大	○本学 67-65 立命館大
バスケットボール部(女子)	
■関西女子学生リーグ戦	
(9月5日~10月18日、東大阪アリーナほか)	
【1次リーグ】	
○本学 76-61 立命館大	○本学 51-72 大体大
○本学 61-49 天理大	○本学 67-65 立命館大
○本学 59-41 大阪大谷大	
○本学 93-73 園田女子大	
○本学 66-63 大阪体育大	
○本学 75-72 武庫川女子大	
●本学 74-92 大阪人間科学大	
(本学は2位通過)	
【2次リーグ】	
●本学 51-72 大体大	
○本学 67-65 立命館大	

セパタクロール同好会	
■全日本学生オープン選手権大会	
(10月10、11日、亜細亜大)	
▽予選リーグ	
●本学 0-2 千葉大A	○本学 2-0 日体大E
○本学 2-0 日体大E	(本学は予選敗退)
ソフトボール部	
■秋季関西学生リーグ戦	
(9月12日~10月11日、武庫川女子大ほか)	
▽1次リーグ	
●本学 0-5 園田女子大	○本学 73-109 大阪人間科学大
●本学 0-13 龍谷大	(本学は1部リーグ3位)
●本学 5-12 親和女子大	▽優勝選手賞=金原沙織選手
○本学 6-4 武庫川女子大	
▽2次リーグ	
●本学 5-6 立命館大	
○本学 6-4 天理大	
●本学 0-3 大阪国際大	
●本学 0-6 大阪大谷大	
(本学は1部リーグ7位)	
▽ベストプレーヤー賞=堺絵莉子	
▽ホームラン賞=堺絵莉子	

バドミントン部	
■関西学生秋季リーグ戦	
(9月11日~10月27日、大手前大体育館ほか)	
【男子団体(6部)】	
●本学 0-5 大谷大学	○本学 76-61 立命館大
●本学 2-3 帝塚山学院大	○本学 61-49 天理大
●本学 1-4 兵庫教育大	○本学 59-41 大阪大谷大
●本学 1-4 関西福祉科学大	○本学 93-73 園田女子大
●本学 2-3 大手前大	○本学 66-63 大阪体育大
【女子団体(5部)】	○本学 75-72 武庫川女子大
●本学 2-3 京都工芸繊維大	●本学 74-92 大阪人間科学大
●本学 1-4 花園大	(本学は2位通過)
●本学 2-3 兵庫教育大	【2次リーグ】
○本学 4-1 京都大	●本学 51-72 大体大
●本学 1-4 京都教育大	○本学 67-65 立命館大
バスケットボール部(女子)	
■関西女子学生リーグ戦	
(9月5日~10月18日、東大阪アリーナほか)	
【1次リーグ】	
○本学 76-61 立命館大	○本学 51-72 大体大
○本学 61-49 天理大	○本学 67-65 立命館大
○本学 59-41 大阪大谷大	
○本学 93-73 園田女子大	
○本学 66-63 大阪体育大	
○本学 75-72 武庫川女子大	
●本学 74-92 大阪人間科学大	
(本学は2位通過)	
【2次リーグ】	
●本学 51-72 大体大	
○本学 67-65 立命館大	

Sports & Culture

人間形成に つながった学生生活

(株)エコーレーディング社長

高橋 一彦さん



昨年、第6回トップ講演会で「人とベツトの共生社会」について講演をさせて頂きました。30年ぶりに訪れた大学は素晴らしい学舎へと生まれ変わ...

第11期生として入学した私の大学生活の一番の思い出は、剣道部で過ごした4年間です。当時はいわゆるスポ根ブームで、テレビ番組の「巨人の星」や「柔道一直線」を見てスポーツ「格好いい」というイメージから剣道を始めました...

私は今、企業のトップとしてマネジメントをしています。指導者や仲間にも恵まれ、充実した学生生活を送ったことが、少なからず人格形成につながり、経営者としての素質を磨いてくれたと感じています...

自分を育ててくれた 関西外大

英米文学翻訳家

高橋 恭美子さん

外大を卒業後、OL生活を経て、20年ほど前から英米ミステリーの翻訳をしています。毎日英語と格闘しているせい、母校のことはよく思い出しますね。

浮かぶのは勉強やクラブ活動に励んだこと...ではなく、なぜか教室の外での楽しい課外活動(?)のことばかり。毎朝牧野駅から友だちと一緒にのどかな土手の道をてくてくキャンパスまで歩いたこと...



社会人になるまで一度も海外へ行ったことなかった私にとって、外大は小さな外国、異国の風が吹く場所でした。劣等生だった私がこうして翻訳を職業としているのはひとえに、あの風に吹かれたおかげと言えるでしょう。

現役外大生のみなさんには、恵まれた環境を存分に活かしつつ、かけがえのない学生生活をたっぷり楽しんでいただきたいと思えます。その体験が将来きつと実を結ぶ日がきますから。(旧姓・荒川) (外国語学部英米語学科82年卒)

「今」を楽しんで

ジャパン・ファンデーション・シドニー(国際交流基金シドニー日本文化センター)文化芸術部長・日本映画祭ディレクター

許斐 雅文さん

先日、私の所属していた関西外大の「通訳ガイドクラブ」の同窓会に出席しました。25年ぶりに会った仲間たちは、髪やシワの数などを除いては、不思議なほど変わっていませんでした。

私が入学した80年代前半は、校舎も古く、学食のA定食が300円。それがとても贅沢に思えたものです。英語がうまくならずと錯覚して入学したのですが、実際は日本の寺社仏閣を研究し、大学祭で成果を発表するためのイベントコーディネーターと組織マネージャー



メンツのクラブでした。気が付いたら、既にどっぷり浸かり、在学中はこの「クラブ活動」と「映画鑑賞」と「恋愛」に明け暮れたような気がします。

現在、私は豪州のシドニーで、日本文化紹介を通して、日本語学習者や日本人を増やすことが目的の政府文化機関に勤務しています。日本映画祭や展示会など、さまざまなイベントをコーディネートして、それをいかに一般に広め、コミュニティに浸透させるのが主な役割です。そこで必要なプロデュース力、運営力、マーケティング力の基礎ができたのは、実は大学時代ではないかと感じています。

大学で培った実践英語

(株)ソースネクスト専務

松田 里美さん



卒業して20年たちますが、大学で学んだ英語は今も仕事で非常に役立っています。部活とバイトに明け暮れて、お世辞にもまじめな学生とはいえないまでも、授業はネイティブ教授の科目を中心に選択し、会話の授業ではとにかく前に出て話すなど、熱心に勉強しました。

よく外国の方に英語をほめていただくのですが、「日本の大学で学びました」と答えています。将来国際的に活躍したいと思っている学生の皆さんも多いと思いますが、大学の授業を徹底的に活用し勉強することをお勧めします。私が学生のころはバイリンガルのテレビ番組を見つけてくることすら困難でしたが、今は生きた英語に接する機会も増えています。

私は今パソコンソフト会社を営んでいます。超字幕というハリウッド映画を使った英語学習ソフトを作りました。映画を見ながら、日英字幕で対訳を確認し、1センチンスズずりピー

トしたり、その場で辞書が引けたりと、便利な機能を搭載しています。学生の皆さんにも使っていただきたいソフトです。貴重な大学生活で英語学習に時間を割くのはとても有意義だと思います。し、関西外大にはそうした環境が整っていると思います。

関西外大と私

国際協力専門家

芳島 昭一さん



関西外大に入学後、自分に課した目標は、将来国際協力業界で活躍するために、英語力の強化とアメリカの大学で学ぶこと。悪戦苦闘の末、交換留学生に選ばれ、4年の夏からアメリカに留学しました。留学先では1日約100のリーディング、レポート作成、ディスカッション中心の授業準備などのために自室、教室、図書館の三角地帯からなかなか抜け出せませんでした。が、そうしたハードな留学生生活をやり遂げたことが自信へとつながりました。

卒業後、「外務省在外公館派遣員」に合格し、在フィジー日本大使館に赴任したことから「国際協力専門家」としてのキャリアが始まりました。任期を終えた後、外務省でAPEC大阪会議の準備に携わった後、インドネシアで、貧困村での青年海外協力隊員、日本政府派遣専門家(JICA専門家)として村落開発プロジェクト・チームリーダー、東部インドネシア地域開発プログラム・フィールドコーディネーターなど多くの業務に携わり、約6年間をインドネシアの現場で過ごしました。

現在は外務省でODA(政府開発援助)の広報業務に携わっています。今後は途上国の現場に戻り、貧困問題に取り組みたいと考えています。夢だった国際協力の仕事に就けたのは、国際社会で生き抜く能力を大学で身に付けたから。人生の扉を開いてくれた関西外大で学べたことを誇りに思っています。

(外国語学部英米語学科92年卒)

スポーツの記録

中宮

ソフトテニス部

全日本大学対抗選手権大会 (8月8、9日、和賀川グリーンパークテニスコート) 【女子】

全日本学生選手権大会 (8月10~12日、和賀川グリーンパークテニスコート) 【女子】

(奥西・伊山組はベスト32)

関西学生秋季リーグ戦 (9月19、20日、滋賀県立彦根総合運動場)

大阪学生選手権大会 (10月3、4日、本学ほか)

北河内大会 (9月20日、交野市総合体育館) 【一般団体の部】

準決勝戦 ●杉岡・佐東 1-5 関西大 (本学はベスト4)

剣道部

関西女子学生優勝大会 (9月20日、大阪市中央体育館)

柔道部

関西学生団体別選手権大会 (9月5、6日、岸和田市総合体育館)

2回戦 ●井登 雅哉 - 大阪経法大 【男子81kg級】

北河内大会 (9月20日、交野市総合体育館) 【一般団体の部】

空手道部

嘉藤 友隆 - 大東市柔道教室

全関西大学選手権大会 (10月12日~21日、大商大総合体育館)

全関西大学選手権大会 (10月12日~21日、大商大総合体育館)

相手を理解し、説得する力

Regional Fundraising Manager (UNICEF, Private Sector Fundraising and Partnership Division)

木村 泰政さん



現在は、バンコクの UNICEF (国際連合児童基金) 東アジア・太平洋事務所で、東南アジア諸国の民間部門からの資金調達を担当しています。

大学卒業後、外務省在外公館派遣員として在イスラエル日本大使館で2年間勤務し、和平交渉の難しさや、パレスチナ難民キャンプでの生活状況を実感し、現在の仕事を始めるきっかけになりました。任期終了後、米クラーク大学大学院に進学、国際開発マネジメントを学び、修士号を取得しました。

大学院在学中、UNICEFのインターンシップに参加したあと、外務省が行っているJOP (ジュニア・オフィサー・プログラム) に採用されました。プログラム中に、UNICEFからオファーを受けて現在に至っています。

国連組織に入って一番強く感じたのは、相手を理解し、ときには相手を説得するだけの「コミュニケーション能力」の必要性です。私は関西外大在学中、セミナーハウスで留学生と起居を共にし、別科の共同開講科目を受講、米カリフォルニア州サンディエゴ大学へ交換留学しました。外大で勉強するうちに、コミュニケーション能力が身に付き、自分の活躍の場は日本だけではないという考えが自然に芽生えてきたように思います。

(外国語学部英米語学科92年卒)

外大生のころの自分へ

ライター 東京支局記者

浦中 大我さん

ジャパンタイムズ記者を振り出しにこの世界で10年近く過ごしてきた。今はライターの経済記者として、速報や

解説記事の執筆に追われる日々だ。1秒の遅れが命取りになる通信社で、正確に速報を打ったり、特ダネを抜かなければならないプレッシャーはきつ、競争は社外だけでなく社内でも熾烈だ。それでも、記者の仕事は自分にとつて天職だし、関西外大に入っていないければ、現在のポジションにつけていたかどうかと思う。

そのくらい外大で学んだこと、経験したことは大きかった。ただ、当時の自分の周りにあったさらに多くの素晴らしい機会を見逃していたのも事実だ。もったいないことをしたものだと思う。

国際人という言葉にあがれて英語を勉強したが、何もそれは流暢に外国語を話すことだけではない。外大生の中にもさまざまな文化的、民族的背景を持った人たちがいる。彼ら、彼女らから得るものも大きいはず。身近な人たちへの態度も高めた方がいい。



記者は人間としての力量が勝負。ありとあらゆる人にどれだけ食い込んで、心を開いてもらえるか。相変わらず人見知りや苦勞し、学生時代にもっと人付き合いをしておくべきだったと思う。一般教養ももっとまじめにやっておくべきだった。歴史、科学、法学、一通り頭に入っていないと、何の取材も進まない。反省ばかりが先に立つ。(外国語学部英米語学科98年卒)

人とかかわることの楽しさ

NHK岡山放送局 リポーター

小野原 菜美さん

関西外大での学生生活は、私の人生で最も内容の濃い4年間でした。中でも、中学からの親友と一緒に入学したボクシング部のマネージャー業務は、本当に辛いことがたくさんありました。でもその何倍もうれしいことや楽しいことがあり、今となっては、とても良い思い出です。

私がこう言えるのも、何もわからないう私たち2人を可愛がって、部活以外

のことも教えてくださった先輩方や、一緒に頑張った同期、支えてくれた後輩たちのお陰です。卒業を前に部活を辞めてしまった私は、先輩や部員のみんなにきちんとお礼を言うことが出来ませんでした。今でもとても感謝しています。



部活以外でも、クラスやゼミの友達、世界各国から来ている先生方や留学生、アルバイト先の仲間、それに在学中に体験した短期留学先など、外大ではたくさん素敵な出会いがありました。

現在ではリポーターとして、さまざまな人とかかわる仕事をしていますが、私がこの職業を選んだのも学生生活の中で「人とかかわることの楽しさ」を学んだからです。今、仕事を通してその「楽しさ」を実感しています。

外大で学んだことを糧に、これから人との出会いを大切にしていきたいと思えます。在学生のみならず幅広く、多くの人と交流を深めてください。(外国語学部英米語学科06年卒)

夢を与えてくれた学生生活

(株)アシックス シューデザイナー

加納 資子さん



外国人の先生による IES の授業で「地球では3秒に1人の子供が亡くなっている」と聞き、私はそんな子供たちの役に立つ仕事をした

いと思えました。南北問題や民族紛争などの国際政治学を学ぼうと、米国オレゴン州のパシフィック大学に学位留学しました。しかし、授業は思い描いていたのと違い、次第に学ぶ意欲をなくしました。

そんなとき、私の靴が9足なくなるという事件が起きました。日本の繊細なデザインの靴が好きだった私は、米

で凍えそうでした。「好きな靴が見つからないなら自分でデザインすればいい」。絵を描くのが好きだったこともあり、私は専攻をアトに変えようと決意しました。単位取得問題でやり取りした後、関西外大も希望を受け入れてくれました。授業は夢いっぱい楽しいものになりました。自分が成長していくのがわかりました。

今、国内外から注文を受けたランニングシューズをデザインしていますが、あのとき「雨のオレゴン」に出合っていないら、私の天職はなかったのです。将来、多くの人に愛されるデザイナーになり、貧困で靴を買えない「裸足の子供たち」の足を守り、また、子供たちの心を明るくするようなデザインの靴を作りたいたいと思っています。

夢をくれた外大、ありがとう。(外国語学部英米語学科07年9月卒)

仲間とともに成長した

07年日本インカレ女子三段跳び優勝

清瀬 静佳さん

高校時代は走り幅跳びの選手でした。身長161センチ、体重46キロと跳躍選手としては小柄。「陸上競技はやめる」と内心決めていましたが、関西外大に入

学後、友人の誘いで陸上競技部に入りました。2年次に三段跳びに転向。三段跳びをしていく部の1年先輩が指導してくれました。一つひとつポイントをマスターし、1年後、自分でも信じられないほど記録が伸びました。3年次の大阪学生選手権で優勝。関西学生選手権で2位に入り、6月の日本インカレで12歳47を跳び、目標だった優勝を勝ち取ることができました。

全くの無名で、記者会見では、「関西外大、初めて優勝ですね」と記者から聞かれたほどです。十数年前、佐々木美佳選手(外国語学部卒)が400メートル障害で大活躍しましたが、それ以来優勝はなかったようです。部の合言葉は「全員陸上」ともに成長



し、ともに勝つ。心が折れそうになっても、いつも周りに仲間がいました。初出場のインカレで緊張せずに跳べたのは、応援メールで励ましてくれたたり、スタンドで応援してくれたたりした仲間のお陰です。「よしやってやろう」という気持ちになりました。みんなが背中を後押ししてくれたらと思っています。

卒業後も練習を積み、今年6月の日本選手権では自己ベストの12歳94で4位、9月の全日本実業団選手権では2位に入りました。母校や仲間感謝しつつ、世界陸上出場・オリンピック出場を目標に頑張ります。

中国での交流が財産に

明治製菓大阪広域支店勤務

吉井 幸秀さん

いまは、京都府、滋賀県のスーパーを対象に、チョコレートなどのお菓子全般を卸す仕事をしています。リーマンショック以降の世界的な不況で、外食から内食に切り替える人が多く、スーパーの食品売り場の客が増えている

です。おかげで、近くに置いてあるお菓子類を買っていく人もあって、売り上げは好調です。国際言語学部では、中国語の短期語学留学で半年、上海外大への学位留学で2年と、合わせて2年半も中国で過ごしました。もともと、中国とのビジネスをやりたいと国際言語学部を選んだわけですが、中国では授業の方はもちろん、それ以外でも楽しい思い出がいっぱいあります。サッカーチームに所属して監督もやりましたし、上海に駐在している日本のビジネスマンとも交流させてもらって、人との出会いが、私の財産となりました。上海のコンビニで明治製菓のアーモンドチョコレートを見つけ、なつかしい思いがしました。高槻の実家の近くに工場があるんです。今では、上海で明治製菓はチョコレートの売り上げ第3位。これからも伸びるでしょう。私も、将来、中国とのビジネスを担当し、関西外大で培った力を発揮できればと思っています。そのチャンスはきくと来ると確信しています。(国際言語学部07年9月卒)

Kansai Gaidai experience

Fiction writer and Japanese poetry translator.

Cristina Rascón-Castro (Mexico)

Ten years after I graduated from the Asian Studies Program, in 2006, I published my first fiction books, two of them precisely about Japan. One year later, in 2007, I published my first translated book of Japanese poetry from author Shuntaro Tanikawa into Spanish. No doubt Kansai Gaidai had a big impact on my development. I had a very complete and solid introduction to the Japanese language through its excellent courses and professors. When I graduated from the Asian Studies program in 1997 I knew I would never stop learning the language and that I would always be connected to Japan.



For the current and future students at Kansai Gaidai, I would say, if you are Japanese, that studying is not everything; only by making friends can you actually live in other countries while attending school. I would say go and sit down where the foreigners are hanging out and talk to them. With very simple Japanese and very simple English, long lasting friendships can be born. If you are a foreign student, I would say, don't expect anything to be like back home; actually don't think much about home and focus on the present (which is flying by), be patient and open, and at the end it will feel like home and you will see more similarities than differences, no matter where you come from.

My general advice would be to read Japanese narrative and poetry while living in Japan (in translation if yet difficult to do it in the original) as a window to breathe an inner view of the Japanese culture and mechanisms through. Literature is one of the best tools to understand how the same human feelings and conflicts can develop within other culture's frames.

Good luck and enjoy Kansai Gaidai.

(Asian Studies Program, August 1996 - May 97.)

ひと燦々 卒業生たちはいま 最終回



1部復帰を喜ぶ男子ソフトテニス部

男子のソフトテニス部が秋季リーグ戦を制し、入れ替え戦でも大阪商大を破って、3年ぶりに1部に復帰した。新チームは、春のリーグ戦では4位

男子 3年ぶり

一部リーグ復帰

と振るわなかったが、夏の合宿で猛練習。体力だけでなく、精神力も養われた。大森聖哉主将は「秋は全員が危機感を持って試合に臨んだ。集中力を切ら

躍進 ソフトテニス部

男子のソフトテニス部が秋季リーグ戦を制し、入れ替え戦でも大阪商大を破って、3年ぶりに1部に復帰した。新チームは、春のリーグ戦では4位

さず戦うことができた」と話す。学務課出口友之監督は「今後は、レベルの高い実業団チームとの練習試合も増やし、関関同立に負けないようなチームを作っていきたい」と張り切

女子 奥西・伊山ペア西日本学生選手権で3位

ソフトテニス部(女子)の外国語学部2年、奥西涼華さん(写真右)、同学部1年、伊山楓香さんのペアが、7月に行われた西日本学生選手権大会で3位に入った。ペア結成後、初めての公式戦

での入賞という快挙だ。

西日本大会は愛知以西の大学から258のペアが出場し、あつという間に勝ち上がった。奥西さんは「コンビの相性もよく、最初からいけるといった」と話す。

二人は高校時代からいろんな大会で顔を合わせており顔見知り。浜田久志監督の指導で、伊山さんの入学直後に

浜田監督の話「二人は攻撃的なプレーができるので、これからは楽しみ。優勝を狙えるペアに育ってほしい」

硬式テニス部

大学対抗王座決定戦

創部43年 初出場で4位に



初出場で4位に入賞した硬式テニス部

穂谷学舎の硬式テニス部(女子)が、今年度の関西大学対抗リーグ戦(1部)で2位になり、創部43年目で初めて大学日本一を決める「全日本大学対抗王座決定戦」に出場、見事、ベスト4入りを果たした。

になってレベルも上がり、一昨年、リーグ戦の2部で優勝。入れ替え戦も勝ち上がって1部へ復帰した。昨年度は1部の最下位だったが、今年度は、初戦で昨年度優勝の関学を破って勢いづき、園田女子大に次いで2位に躍進、王座決定戦への出場を決めた。

テニス部は1966年の創部。20年ほど前に1年間だけ、関西大学リーグの1部が上がったものの、長い間、不振の時代が続いた。厳しい練習や特技入試で高校の優秀な選手が入学するよう

ルアップを目指し、チーム力を上げていきたい」と話す。相良博昭監督の話「関西ブロック代表としてベスト4は最低目標。次はもっと上を目指したい」

愛知県豊田市で10月28日から開かれた王座決定戦には、全国8つのプロツクから10大学が参加。初戦で青森大を破ったが、準決勝で早稲田大、3位決定戦で園田に敗退し4位になった。キャプテンの上原典子さん(国際言語学部3年)は「初めての王座決定戦だったが、周りの雰囲気にもまわることができたといい戦いができたと思う。今後は一人ひとりのレベルアップを目指し、チーム力を上げていきたい」と話す。

在外公館派遣員 体験記

ジャパン・デイに悪戦苦闘

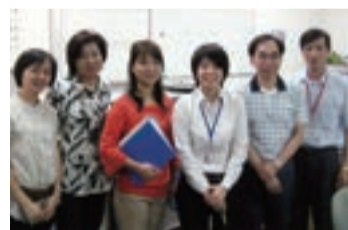
在広州日本国総領事館／派遣員

見並 京子さん

私は現在、中国広東省広州市にある在広州日本国総領事館で派遣員として働いています。「市」といっても、広州市の人口は一千万人を超え、日本人も約5600人が駐在しています。

私の勤務する総領事館では、中国にいる邦人の方々にパスポートの各種手続きをしたり、証明などを発行したりするほか、日本を訪れる中国人の方々へのビザ審査や発給、また、政府機関への申し入れ、文化行事などの業務を行っています。私はその中でホテル、航空券予約、配車、資料作成などの細々とした作業を担当しています。

職場はとてもアットホームな雰囲気です。さらには広範囲に仕事を任せられるため、とてもやり甲斐を感じています。日常的な仕事以外に、毎年行われる文化行事もあります。中でも印象深かったのが、毎年秋に行われる領事館主催の「ジャパン・デイ」という日本の文化紹介イベントです。



総領事館の同僚と(右から3人目)

ジャパン・デイでは旅館のお女将による講演、着物の着付け、茶道の実演、日本食の紹介、交流サロン、餅つき、折り紙教室など、さまざまな催し物が行われます。前日準備では展示用の雛人形の組み立てに夜遅くまで悪戦苦闘し、来場者数の心配をしました。それが、当日は会場に入りきれないほどの大入り。もみくちゃにされながら入場整理にあたりました。お客様の楽しませてもらっている姿、また、会場全体の賑わう様子に感無量の思いでした。

私は関西外大の英米語学科で学び、第二外国語として中国語を学びました。中国語研究会に所属し、現在大学院の担当教授である戸毛敏美教授のご指導の下、目標としていた中国への交換留学の試験に合格し、10か月間、天津の南

日は会場に入りきれないほどの大入り。もみくちゃにされながら入場整理にあたりました。お客様の楽しませてもらっている姿、また、会場全体の賑わう様子に感無量の思いでした。

開大学に留学しました。この留学で初めて現地の生活に触れ、言語を学びながら中国を肌で感じる事ができたのは、とても有意義な体験でした。留学後、語学力に磨きをかけるため本学の大学院に進学し、広州に派遣されるまでの間、優秀な教授、先輩方の下で専門的な通訳、翻訳の指導を受けました。半年という短い期間でしたが、大学院で学んだことは今の仕事でも役に立っています。

語学学習に終わりはありません。将来は、今までの経験を生かし、中国語を用いる仕事に就き、引き続き勉強を続けられればと考えています。 ※本学大学院博士課程前期(国際ビジネスコミュニケーション学)1年次の2007年、派遣員試験に合格。同年9月から在広州総領事館で勤務している。派遣員の任期は2年だが、半年間延びて来春までの予定。

PICK UP!!

オータムコンサートに350人

吹奏楽部による秋の公開講座「オータムコンサート」が11月17日、谷本記念講堂において開かれ、学生や地域のみなさん約350人が詰めかけました。2部構成で、1部はシンフォニックステ

1部。映画でおなじみの「もののけ姫」など4曲をしつとりと演奏しました。

2部はステージマーチングショー。1部とはがらりと印象を変え、CMでおなじみの「GET IT ON」などアップテンポな4曲を披露。最後のアンコールでは、部員が客席に降り、ホール内が一体となる事ができました。

(吹奏楽部主将 黒永康太郎) 西中君、銅メダル 関西学生ポピュラーダンス選手権 大阪府松原市の阪南大学体育館で10月4日に開かれた、関西学生秋季ポピュラーダンス選手権大会の総合の部で、

外国語学部英米語学科4年の西中聡志君が3位に入った。

ボイビル選手権には本学のほか京都大など4大学が参加。腹背、足、マスキュラー、腕、胸、フリーポーズの7つの部門別で競い、西中君は腹の部で1位だった。

「枚方の里山・収穫の秋穂谷」が10月11日、本学穂谷学舎南側一帯で開かれた。穂谷キャンパスの学生ら約40人もボランティアで参加した。地元で収穫されたダイコン、ハクサイなど約45種類の野菜が並ぶ朝市やつきたてのきな粉もち、焼きいもなどを販売する模擬店も並び、学生らも大声を上げながらきな粉もちを販売。会場では同キャンパスのジャズバンド「ところてん」や奏楽サークルのライブもあり、参加者も熱心に聴き入っていた。学生らは会場の誘導や受付にも加わり、地域の人たちとのふれあいを満喫した。



ヨーロッパ・アフリカ留学フェア開く

——英語圏の学生が集まる魅力をPR——

ヨーロッパ・アフリカに留学した学生や、この地域から来ている外国人留学生が、これらの国々や大学生活などについて説明する「ヨーロッパ・アフリカ留学フェア」が11月9日、中宮キャンパス国際交流センターで開かれた。午後3時から4時間、1階ラウンジは留学を希望する学生たちがひっきりなしに訪れた。国別に分かれたブースのほか、会場の一角には留学生らのプレゼンテーションコーナーも設置。詳しく説明を聴いた参加者は、さまざまな国からやって来る学生たちと知り合う機会が多いヨーロッパ・アフリカへの留学の魅力を感じ取っていた。

説明役を務めたのはヨーロッパ17か国、アフリカ3か国の留学経験者と外国人留学生計49人。プレゼンテーションでは、イタリア、ドイツ、エストニア、マル

タ、フランス、アイスランドのヨーロッパ6か国、ケニア、モロッコのアフリカ2か国の大学や街並みがスクリーンに映し出され、日本語、英語での説明が続いた。

この留学フェアは国際交流部と学生たちの実行委員会が主催した。この催しを提案し、実行委中心メンバーとして参加した大学院前期英語学専攻1年次の藤原恵美さんはレイキャビクのアイス

ランド大学への留学経験者。「私も初めはアメリカやイギリスくらいしか関心がありませんでしたが、アイスランドに留学して、英語圏の各地から大勢の

学生が来ていて、英語を使った勉強が出来たし、アイスランド語も学びました。驚きと発見の連続は、未知の国へ行ったからこそ」とアピール。今後こうした



留学希望者が続々と

機会を持ちたいといい、「ヨーロッパ、アフリカの魅力を伝えたいと思っているので、たくさんの学生に集まってほしい」と話していた。



奇抜さ競ったハロウィン仮装コンテスト 留学生ら400人で盛り上がる

恒例のハロウィン仮装コンテストが10月30日に中宮キャンパスで開かれた。今年は外国人留学生と一般学生計47組、約80人が参加=写真。ゲーム・アニメ・

キャラクターのFantasy▽男装・女装・ギャグのFunny▽2人以上のPair・Group▽それ以外のGeneral——の4部門に分かれて、奇抜さや面白さを競った。

コンテストは毎年、ハロウィン本番(31日)の前日に開催している。この日は午前中から着ぐるみを着たり、目立つコスチュームを身につけたりした学生で、キャンパス内は一風変わった雰囲気。黒い胴体に仮面をつけた、アニメ映画「千と千尋の神隠し」の仮面男・カオナシに扮した学生もいて、暗くなってからのキャンパス行進も盛り上がった。

メインイベントの仮装コンテストには約400人の学生が詰めかけ、会場の円形ステージはほぼ満席。出場者のパフォーマンスを楽しんだ後、投票が行われ、各部門の優勝者(グループ)が発表される度に大きな歓声が沸いた。

穂谷でイベント続々

別科留学生と交流会

中国人留学生とゲーム

餃子づくりに挑戦

10月から11月にかけて、穂谷キャンパスで学生や教員が提案した留学生との交流イベントが相次いで開かれた。

11月7日にはセミナーハウスで餃子づくり。国際言語学部の相原里美講師が中宮キャンパスの短大部での授業で、本場の餃子を紹介したところ、「ホンモノをつくって食べたい」という声が上がリ、「餃子パーティー」が実現した。相原講師のほか吉田泰謙准教授や学生スタッフが準備し、短大部招聘教員の周小臣准教授と中国人留学生ら計約20人が先生役として参加。短大部の学生を中心に参加希望が相次ぎ、約60人が本格的な餃子づくりに挑戦した。



これで餃子づくりはバッチリ

小麦粉10キ、合いびき肉7キのほか白菜、白ネギ、ショウガなど大量の材料を、スタッフが用意。8つのテーブルに分かれて餃子づくりがスタート。留学生らの指

示に従って皮は小麦粉から、具は肉や野菜で作り、一つひとつ丁寧にひだをつけて完成させた。

自分でつくった水餃子をほおばった短大1年の辰己恵太君と今宮豪君は「生まれて初めての体験。一生懸命やりました。自分でつくった餃子はうまい!」と大満足。指導役の一人、インターンシップで穂谷に来ている北京語言大学大学院生の王方園さんは「みんなまじめに取り組んでくれました。大成功ですね」と話していた。

また、10月20日には中国人留学生との交流会を教室で開催。約50人がゲームなどを楽しんだ。

里山の秋を満喫 中宮留学生

10月19日からは、中宮キャンパスから留学生別科の学生に来てもらい、3日連続で交流会を開いた。計約50人の留学生が参加し、穂谷の学生も100人以上が集まった。

昼食をともにして留学情報を仕入れた後、教室でゲームをしたりした後、キャン

パスツアー。名物の焼きたてパンを食べながら、万代池のコイと戯れるなど、穂谷の秋を満喫した。

米国シカゴ・ディポール大学に交換留学した体験をもとに交流会を計画した国際言語学部4年の長谷川愛さんは「目的は、英語や留学への意識を高め、留学生とのネットワークづくりを進めること。今後も帰国留学生と話す機会を増やすなど、留学計画の助けになるような催しを開きたい」と話している。



万代池でコイと戯れる

体験記 夏休みの中国研修

国際言語学部1年
(中国語コミュニケーションコース)
斎藤 智也子さん

夏休みに、日本青少年友好使者代表団の一員として一週間、中国へ研修旅行に行きました。そこで学んだことは、実際に自分で体験、交流することの大切さです。訪ねたのは北京、武漢、上海の3都市でたった一週間でしたが、自分の考えや中国のイメージがどれだけ間違っていたか、思い知らされました。

武漢では華中科技大学と華中農業大学、上海では華東師範大学の学生とも交流しました。日本語学科の人たちだったので、会話は日本語と英語。大学生活や就職活動などについて紙に書いてやり取りもしました。話すうちに、中国人はとても勤勉だと思ったし、日本の企業で働きたいという人がたくさんいて驚きました。またどこに行っても夕食は歓迎会。中国語の歌を歌ったり、中国の学生が京劇を演じてくれたり、チベット民謡を披露してくれたり。

とても盛り上がりました。

同じ中国でも都市によって街並みが違い、別の国に行ったようでした。上海には高層マンションがたくさんあり、「北京=東京」という私の先入観は、上海でひっくり返されました。東京より発展していると思ったほど。また、北京より上海の食べ物が日本人の口に合うとも感じました。

研修中は見るものすべてが新鮮で、驚きと感動の連続。一生忘れられない、中身の濃い一週間でした。自分の考え方も変わったし、視野も広がったように思います。研修で学んだことや感じたことをこれからの大学生活や留学に活かしていきたいです。



手前が斎藤さん(上海で)

谷本繁子理事長も飛び入り参加して記念撮影



Hello! 海外からの@メール

アメリカ・ブルマン発

一面小麦畑で環境は最高 アメリカ手話も学んでいます

外国語学部英米語学科 石浜 詩織さん
(交換留学・ワシントン州立大学)

アメリカ・ワシントン州のブルマンという小さな町にあるワシントン州立大学で、ホスピタリティとアメリカ手話を主に勉強しています。この町は大学以外にはほとんど何もなくて、辺り一面に小麦畑が広がっていて、勉強には最適な環境です。

アメリカに来て3か月が経ちましたが、まだまだ大変なことも多く、日々努力の毎日です。アメリカに降り立った初日からいろいろなトラブルにも見舞われました。知らない土地で、頼れる人もおらず、初めはすごく不安だったのですが、3か月たった今、たくさんの友達ができ、楽しいことも大変なことも共有できるようになりました。

アメリカに来てから、時間が経つのが本当に早く感じるようになり、毎日があっという間に終わってしまいます。何事も自分次第で良くも悪くもなる留學生活。限られた期間の中で、今自分がやりたいと思うことに積極的に取り組み、かつ楽しいと思うその気持ちを大事にして、残りの留學生活を有意義なものにしたいと思います。



大学近くの公園で友達とバーベキュー

スペイン・グラナダ発

80%が英語圏からの留學生 目標は彼らと互角の議論

外国語学部スペイン語学科 沼田 裕美さん
(交換留学・グラナダ大学)

私は今、スペインのグラナダ大学というところで勉強しています。そこは、世界遺産・アルハンブラ宮殿のすぐ近くに位置しています。

私の通うキャンパスは、アメリカなどの英語圏出身の留學生が80%を占めています。したがって、先生が話すスペイン語でそれぞれの授業の内容を理解することはもちろん難しいですが、

それよりも今は、英語圏出身の友人、クラスメイトが話す、英語に聞こえるスペイン語を理解するのに必死です。

驚いたことは、留學生たちのスペイン語の勉強に対する意欲、また、授業中の発言力がとてつもなく高いことです。私も負けまいと発言するのですが、今は全く太刀打ちできません。自分の語彙の少なさ、会話力の無さに苛立ちを覚えています。他の留學生に負けてはいられない! と思いつつ、良い刺激を与えてくれる留學生たちに感謝し、毎日必死に勉強しています。今学期が終わるまでには、彼らと互角に議論できるようになっていることが今の目標です。



一番お気に入りのバルでフランシスコおじさんと

フィンランド・ヨエンス発


すてきな友とFinnish family 教育学の授業は刺激的です

外国語学部英米語学科 遠藤 沙央里さん
(交換留学・ヨエンス大学)

こんにちは! フィンランドのヨエンス大学に留學しています。来て早くも2か月がたちました。着いたところは夜の8時を過ぎても明るかったのに、今では4時にもなると外は真っ暗です。9月末には初雪が降り、寒くて暗い冬が近づいています。

ヨエンス大学はヨーロッパを中心に世界各国から多くの留學生を受け入れていて、とても国際的です。私が履修している教育学の授業ではディスカッションする機会が多く、いろいろな意見が聞けてとても刺激的です。文化の違いや言葉の壁で、理解し合う苦勞もありますが、それも留學の醍醐味だと思って楽しんでます。

また、Finnish friend program (外大のスピーキングパートナーのようなもの) でフィンランド人の家族と知り合うことができ、週末はFinnish familyの家やsummer cottageで過ごしたりして、フィンランド人の生活を生で体験しています。サウナの後に湖に飛び込んだり(何の抵抗もなく飛び込んだら「You are original Finn!」と言われました《笑》)、夜に森の中でかくれんぼをしたり、フィンランドでできない貴重な体験を積んでいます。厳しい冬も、すてきな仲間や温かいFinnish familyと一緒に乗り切りたいです。



観戦
メキシコ・フィンランドの友達とサッカー

Featuring Japan & the World

留學生別科生の寄稿

留學生に
聞きました

セミナーハウスのここがいい!



一つ屋根の下で
異文化交流を

Eddy Elsagh
(Concordia University, Canada)



お父さん・お母さん、
RAたちの笑顔で安心

Angela Siele
(United States International University, Africa, Kenya)



和食の味を堪能
ヤキソバにも挑戦

Jennifer Miller
(Adrian College, U.S.A.)



Being a resident of Seminar House 2 has definitely been one of my favorite experiences in Japan. Since it is the smallest seminar house, it is very feasible to get to know most of the residents and become a makeshift family where we make delicious *takoyaki* together in the kitchen, help each other out with Japanese homework, laugh together while watching an anime or even organize a soccer tournament.

Although you won't be using Japanese a 100% of your time in the seminar house, the colorful blend of different cultures under the same roof makes it impossible to experience a single dull moment. The RA's are always there for you and *otosan* and *okasan* are some of the nicest people I've ever met. If I were to describe my stay in Seminar House 2 in a single sentence, it would be without a doubt: 限界突破



An international experience can be counted as one of the most thrilling experiences of your life. It gets even more exciting when the first encounter with your host country is one that exceeds your expectations.

After almost twenty hours of travel, I arrived from Kenya, to be received by the smiling and lively faces of the Resident Assistants and Caretakers, *Otoosan* and *Okaasan* in Seminar House Four. This very first impression, put all my worries to rest, and I was confident that this was going to be a great year in Japan. This has proved to be so given the kind support and help of the Caretakers and Resident Assistants, who are always ready to help, be it in the wee hours of the night or in the light of day.

After a hard day at school and at play, we unwind in the Seminar House lounge, which has television and video facilities, and a very calm and fun atmosphere to relax in. Even more, is the world class kitchen facility that allows the students to interact when cooking! The dining area, and shared bedroom facilities, also provide an excellent studying environment. When the day comes to an end, the international students look forward to tucking themselves in the comfortable futons and after a good night's rest, they are refreshed to begin a new day.

The International Seminar House is truly more than a home away from home!

My name is Jennifer Miller. I am a Senior studying abroad from Adrian College of Adrian Michigan, United States.

I live in Seminar House Four with my room mate, Ayaka Hara. Living in the dorms has been great for independence and socializing with the other international students. Living with a host family is probably better for learning Japanese, but I have been able to practice quite a lot with my roommate and with Hiro-san, Maki-san, and Mai-san, my awesome Resident Assistants.



They are very helpful, especially with homework. I really enjoyed the Japanese cooking day we had last month. Learning to make traditional dishes was a lot of fun, and I use the *yakisoba* recipe that I learned almost every week! The dorms also make student life better, with access to a computer lab, wireless internet, full kitchen facilities, and a laundry room. For anyone considering staying in Seminar House Four next semester, I would definitely recommend it.

「時代の变化に適応を」

前タワーレコード社長 伏谷 博之さん

第2回トップ講演会



本学を卒業し、経営者として活躍している人を講師に迎えて実施しているトップ講演会が11月6日、中宮キャンパス1105教室で開かれた。講師は、1991年に外国語学部英米語学科を卒業した前タワーレコード社長・最高顧問で、現在はオリジナル(株)、タイムアウト東京(株)を運営する伏谷博之さん。「どうにかなるさ不況の時代こそ人生はいろいろ——多様な価値観、取

り組みこそが世の中を活性化する——」の演題で講演し、レコード・CDショップの店員から社長へ、そして起業するまでの波乱に富んだ歩みを振り返りながら、「画一的な考えは、多様な意

見を封じ込める。世の中はどんどん動き、変わっていく。そうした事に適応していける人間に」と訴えた。
伏谷さんは大学2年生の時、ジャズ、ブルースの世界にはまり、3年生の後期はわずか1日しか授業に出席せず、自宅に引きこもって1日に約8時間ギターを弾いていた。卒業には5年かかったが、在学時にタワーレコード心齋橋店でアルバイトをしていた縁で同社に入社。米国サクラメントで産声を上げた同社創業者の理念、「ユーザーと音楽の出会い最高の場所を提供する」とを信条に、レコード、CDの視聴機導入など常に斬新な企画を考える一方、インターネットにもいち早く対応するなど時代を見越した行動で活躍した。

05年に代表取締役社長に就任。07年には音楽などコンテンツを提供するオリジナルを設立。今年2月に最高顧問退任後は、ロンドンに本社を持ち、海外23か国で展開するライフスタイルメディア「Time Out」とライセンス契約。「現在、日本のことを海外で紹介出来るメディアはありません。世界30都市で100万部を発行するTime Outで日本の情報を発信したい」と、7月にタイムアウト東京を設立した。
最後に「厳しい社会状況だからこそ、今のうちに種まきをして、不況の世の中へ働きかけてください」と学生に呼びかけた。
トップ講演会は、今年度2回目を通算8回目。

就活に「参考になった」96%も 穂谷で初の「就職座談会」

就職活動に取り組む学生に、企業が求める人物像を知ってもらおうと、穂谷キャンパスには10月29日、穂谷キャンパスで、大手企業5社の人事担当者を招き、初の「就職座談会」を開催した。国際言語学部の3年生を中心に約150人が参加、企業の生の声に聞き入っていた。
出席した企業は、三井住友銀行▽

JTBグループ内のJTB大阪▽全日本空輸▽日本通運▽ロイヤルホテル。キャリアセンターの山中正美課長が司会を務め、パネリストはスカッシュン形式で行われた。
三井住友銀行では、「関西外大のOB、OGが現在約280人働いている」と紹介。他の企業も「単なる旅行会社ではなく、社会や人々の生活を豊かにする交流文化産業を目指している」(JTB)▽「羽田の新滑走路の完成や成田の増便など2010年は飛躍のチャンス」(全日本空輸)▽「物流業界は隠れた人気企業」(日本通運)▽「今年は採用しなかったが、来年は採用する」(ロイヤルホテル)などと現状を説明した。
2010年度の雇用環境については、各社とも計画段階中だが、現状より悪くはないだろうとの見方を示した。
エントリーシートは5社とも選考に使用。筆記試験を課しているのは、日本通運、全日本空輸、ロイヤルホテル。エントリーシートについては、「自分の熱い思い、PRを自分の言葉で書き、この子に会ってみたいな、と思わせる内容を」とアドバイスした。

保護者就職懇談会

保護者「就職懇談会」(10月10日開催)で就職先が内定した来春卒業の短大部、大学生各3人が語った体験談(要旨)を紹介する。

ホテルグランヴィア京都



短大部英米語学科2年 今中 一恵さん
入学後、しばらくして始まる企業別の就職ガイダンスには、なるべく参加するようにしました。いろんな業界の話を知ることが、就職活動の参考になることができるからです。
最初に受験した企業は、自分の気持ちの半分も伝えることができず、落ちてしまいました。そのとき初めて、「練習のつもりでいいから、早めにいろんな企業の面接を経験した方がよい」というキャリアセンターの方のおっしゃった意味がわかりました。
気をつける点は、大手企業の選考は早い時期に始まるので、早めに準備を進めることです。自己分析、企業研究、SPI対策、一般常識の勉強などは早めに始めて損はありません。今からでも始めるべきです。

近鉄エクスプレス



国際言語学部4年 大谷 純規君
就職について考えはじめたのは2年生の1月ごろでした。キャリアセンターで基本的な話を聞いたり、求人広告を見たり、気になってくる企業を調べたりしたのが始まりでした。その後、北京で語学研修、海南島のホテルでインターンシップに参加するなど、3年生の大半を中国で過ごし、その間、留学仲間と就活の情報交換をするなど意識を高めました。
帰国後は、合同説明会やセミナーなど、毎日のように企業に向かいました。留学によって他の学生より遅れていると感じましたが、あきらめずに取り組んだ結果、内定をいただきました。
就活では、自分がどのように生きてきたか、自信を持って発表することが、一番の大きな武器だと思います。

京阪不動産



短大部英米語学科2年 徳山 巳紀さん
入学当初から就職希望だったので、1年生の4月から学校でのガイダンスに参加し、1月から本格的に就職活動に入りました。いろんな会社説明会に行くことで、さまざまな業界について学ぶことができたのはよかったです。また数多くの面接を経験したのもよい結果につながりました。面接は慣れが大切です。
4月には第一志望を含めて、数社の最終面接に残りましたが、いずれも断られ、しばらくは何をする気もなくなりました。そんな中、キャリアセンターのアドバイザーで学校推薦と言う方法があることを知り、内定にこぎつけました。キャリアセンターにはアドバイザーだけでなく、やる気、元氣もたくさんいただき支えられました。

瀧定大阪



外国語学部英米語学科4年 吉田 友香さん
3年生の10月ごろから就活を開始。就職ガイダンスに参加し、リクナビにも登録しました。自分が本当に興味を持って仕事を選ぼうと心に決め、最終的にアパレル・繊維商社の業界に絞りました。30社の説明会に行きましたが、受験したのは10社で、面接に進んだのは8社でした。
エントリーシートは各社・業界によってさまざまです。私は一度書くこととキャリアセンターに行き、添削していただきました。自分では気付かなかったミスや言い回しなどをアドバイスしていただき、大変助かりました。
面接までいくには、エントリーシートで合格することです。自分がその仕事を希望する熱意を、自分の言葉で伝えることが何より大切だと思います。

三井住友銀行



短大部英米語学科2年 谷岡 絵梨さん
就職を意識し始めたのは1年生の10月ごろからで、大学の就職ガイダンスやキャリア講座にはできるだけ参加するようにしました。
2月に入ると、大学などで行われる合同説明会に参加し、希望する金融・保険会社を中心に企業研究しました。春休みは毎日キャリアセンターに通い、履歴書とエントリーシートの添削です。5月は選考のピークで、徐々に面接にも慣れ、面接官に考えていることを伝えることができるようになりました。
就活中は友達とも話ができず、つらい日もありましたが、両親に話を聞いてもらいすっきりしました。幸運にも希望する企業から内定をいただいたのは、最後まであきらめない強い気持ちを持ち続けたからだと思っています。

十八銀行



外国語学部スペイン語学科4年 中尾 茉莉さん
就活で印象に残っているのは、マナー講座です。メールの送り方や礼の仕方、いすの座り方などを学ぶことができ、面接時に大変役立ちました。
3年次の春休みに入ると、エントリーシートや履歴書作成に追われるようになり、キャリアセンターで何度もチェックしてもらいました。
学外の企業説明会やセミナーもありますが、学内のセミナーに参加することをお勧めします。本学に興味がある企業がたくさん集まっております。気軽に話を聞くことができるからです。
就活で何より辛かったのは、就職できるのかという精神的なしんどさです。そんな時、私に置かれた状況を理解し、悩みや愚痴を聞いてくれた両親の気持ちがとてもうれしく励みになりました。



分の思いを伝える。マニュアル通りに暗記して答えるのは駄目」として、「面接会場に入ってから座るまでの約15秒間が相当なウェイトを占める」「相手の目を見つめ、笑顔で挨拶することが、すべての業種で重要」とのノウハウを伝授した。
就職座談会のアンケート結果では、回答(91人)した学生の96%が「参考にあった」と評価。会社が求める人物像についても、「よく理解できた」が62%、「なんとなく理解できた」が36%と答え、参加した5社の採用選考に応募してみたいという学生が79%に上った。「企業の生の声が聞けて良かった」という声も多く、山中課長は「ぜひ、来年も開催したい」と話している。

面接では、各社とも「自分をありのままに見せ、自分の言葉で自分の思いを伝える」という内容が重視されている。また、各社とも「自分の思い、PRを自分の言葉で書き、この子に会ってみたいな、と思わせる内容を」とアドバイスした。

Vol. 13

研究室から

国際言語学部

江平

英一 教授

4年後に問われる真価 国際メデイア英語コース



自分の好きな音声教材を選びディクテーション、テキストと照らし合わせて修正、さらに聞き直します。記録はレポートとして提出させます。

このように、読み、聞くインプットは日本人教員が担当しますが、ネイティブ教員が担当するのは、アウトプットの部分で、1年次には基礎として、英語を口から出す訓練をします。

3 年次生には発信力高め 英字新聞への投稿も

自分の意見を発信するためどんな工夫をしていますか。

江平 国際言語学部では、今年度から新カリキュラムで、1年次にアカデミックスキルズという科目が新設されました。これは、与えられたテーマについて資料を集め、アイデアを整理して、日本語で原稿をまとめるまでを勉強します。書く項目を紙に書き付け、順番をどうするかを考え、読む人にわかりやすい文章を練ります。書くことに苦手意識をなくしたいのです。4、5人のグループに分かれ、自分たちで問題の解決案を出させることもやります。

国際メデイア英語コミュニケーションコースでは、こうした問題解決型の学習を英語でやることを考えています。このテーマなら新聞のどこを読み、インターネットのどこを調べたらよいか、そのデータをもとにどう英語を組み合わせ、活字や音声でアウトプットするか、そうした全体が課題になります。

3年次から始まるインテンシブ科目では、英字新聞に投稿するなど、自分を発表する力、訴える力を強化したいと考えています。4年後に最初の卒業生が出る時には、私たちの指導がどれだけのものだったかが問われるわけで、緊張して取り組んでいます。

コース独自の取り組みとしては、コース・ミーティングに海外特派員や英字新聞の編集の経験者を招いて講演会を開きます。第一線で働いた人の話を聞くことで、メディアに対する感覚を磨いてもらいます。

「耳を澄ます」訓練を徹底
徹底的に英語漬けにしているわけですね。
江平 学生には、多読を義務付け、学習の易しい本を1学期に500ページ読むよう求めています。レベルは6段階に分かれていますので、学習が進めばより高度なものに進むことができます。やみくもに読むことで、英語の感覚が自然と身についてきます。もう一つの特徴は、コース受講生全員が受講している「トイフル・スコアアップ」で行っている「耳を澄ます」訓練です。

大学院で英詩の文体を研究

どんなきっかけで英語教育を?

江平 外国語学部3年のころ英語の通訳になりたいと思い、通訳の専門学校に半年近く通いました。ところが、周りは日本語を聞いたら直ぐに英語が出てくるような人ばかり。「自分にはまだまだ英語運用能力が足りない」と気づかされ、大学院に進学しました。大学院では英語学を専攻し、修士論文では18世紀に活躍したイギリスのアレクサンダー・ポープとサミュエル・ジョンソンの詩の文体を擬人法の観点から分析しました。

大学院の2年のとき、万代学舎にあった短大部のLL教室のアルバイトをし、そのあと、今ではなくなりましたが夜間部の英文法担当の非常勤講師に採用されました。穂谷キャンパスには、万代から短大部が移転した最初の年からいますから、穂谷とともに歩んできたと言えるでしょう。夜間部には社会人も多かったから、どんな質問が出てくるか、戦々恐々でした。

多読の勧め

ご自身の勉強で身についたと思うことは何ですか。

江平 英語の本を読むことが好きで、学生時代、最初に手にしたペンギンブックスの「日本の歴史」を読み終えて自信が出てきました。そのあとはアメリカやイギリスの作家の小説を読んでいます。アクションものが好きで、今でも手放せません。本を開けば即、別世界に入り込めます。私が学生に多読を勧めるのは、読むことで英語が身についてきたと実感できるからです。

プロフィール

関西外国語大学外国語学部英米語学科卒。同大学大学院英語学専攻修士、文学修士。修論は「A Study of Metaphor」。1979年関西外国語短大第二米英語学科助手。同学科は92年米英語学科、2000年国際コミュニケーション学科と名称変更されるが、閉鎖される前年の08年まで所属。99年、教授に昇任。短大部教務部長を務めた。08年国際言語学部に転籍した。現在は穂谷キャンパスのFD委員。

英語学習テーマにネイティブ教員が発表

FD委員会ワークショップ

今年度1回目となるFD委員会ワークショップが、9月19日午後、中宮学舎多目的ホールで開かれ、国際言語学部の2教員が発表したII写真。



一人目のリチャード・ハンフリーズ准教授は「英語科目で試してみたメディア教育活動」と題し、英語技能科目に情報発信活動を盛り込んだ授業実践を2例紹介した。第1例では、二人目の発表者はジェームズ・ロジャーズ講師。「既知語彙から未知語彙を攻略する方法」を紹介した。大学1年生で重要英単語3000のうち61%は借用語等ですでに理解できていることを指摘し、残りを効率良く習得させるために、これら既知語を有効活用させることを提案、そのための具体策も提示した。

PICK UP!!

「ASEAN+3」大学 コンソーシアムの概要説明 外部評価委員会

文部科学省選定の教育G P「ASEAN+3」大学コンソーシアム構想」の外部評価委員会が10月8日、中宮キャンパス本館であり、出席した4委員に本学から取り組みの進捗状況について説明、委員からの質問に答えた。



出席した委員は、太田慎一静岡大学教授、山本憲治関西国際交流センター教授、山本憲治関西経済連合会常務理事、劉占山在大阪中国総領事館領事、崔德燦在大阪韓国総領事館教育担当領事。谷本義高大学学長があいさつ、豊田裕之国際交流部次長が構想の背景、取り組みの概要、本年10月までの経緯、これから11年2月までの予定を説明した。

海外特派員が穂谷で講演

国際言語学部国際メデイア英語コミュニケーションコースの第5回コース・ミーティングが10月17日、穂谷キャンパスで開かれた。毎回、英語を駆使しての取材・報道に携わったメデイア関係者が講演しており、この日の講師は、今年3月まで毎日新聞アジ

ア総局長を務めた藤田悟さん(現大阪本社編集制作センター部長代理)。「東南アジアの英語事情」をテーマに、11年に及ぶマニラやバンコクでの取材体験をわかりやすく話した。藤田さんは「日本人は『話す英語』が苦手だが、文法がしっかりしている。政治や経済の場ではアジアでも英語が主流。みなさんも頑張ってください」と励ました。

研究論集90号刊行

本学教員の研究成果を発表するための「研究論集」90号が9月に刊行された。論文4題、研究ノート2題、教育研究報告4題を掲載している。研究論集は、72号以降の掲載論文を電子化、インターネット上で公開している。(http://opac.kansai-gaidai.ac.jp/elib/index.html)

90号の掲載論文は次の通り。

John D'Arce の現実受容の世界観 - Saul Bellow との比較において (柏原和子)▽ジョルジュ・サンドの『愛の妖精』における『妖精』について (平井知香子)▽マリヤリスト・エウリピデス - エウリピデス『嘆願する女たち』考 (丹下和彦)▽戦略的人的資源管理 (SHRM) の理論とその分析枠組みとしての有効性 - バングラデシュに進出した日系企業の事例調査を踏まえて (内田智大)

新着本

『いっしょに考えてみようや』 — ノーベル物理学賞のひらめき —

小林誠、益川敏英著、朝日新聞出版 所蔵:中宮図書館 3F



ノーベル物理学賞受賞の快挙は2人の力で得たものではなく、多くの研究者の努力と莫大な時間によってもたらされたものだという両氏。タイトルに込められた思いや、物理学をはじめたきっかけ、授賞式、記念講演会の様子などをまとめた一冊。

『ベーコン』

井上荒野著、集英社 所蔵:中宮図書館 3F



短編恋愛小説集。目次もレストランのメニューのよう。メニューを見て「何を」食べるか考えるのも、楽しいひとときですが、この小説では「誰と」食べるかがポイントです。おなかいっぱい食べてもどこか満たされない、空っぽの感覚。その空洞を埋めるため、人は誰かと食事をするのかも。

『差別感情の哲学』

中島義道著、講談社 所蔵:穂合図書館 3F



差別とは、いかなる人間的事態なのか? ある個人が特定の他人を嫌うことを差別とは呼ばない。差別とはある集団による別の集団に対する嫌悪・排斥である。そこに見える人間の「精神の怠慢」を追究する。

『マン・オン・ワイヤー』

フィリップ・ブティ著、畔柳和代訳、白揚社 所蔵:穂合図書館 4F



1974年、ニューヨーク・WTC(ワールド・トレード・センター)のツインタワー間を綱渡りした曲芸師の物語。前代未聞の出来事がいかに計画・準備され実行されたかの詳細な記録でもある。世界をあとと言わせた「犯罪」の真実とは。(09年アカデミー賞「長編ドキュメンタリー映画賞」受賞作の原作)

新刊 本学教員の書いた本

『ハリケーン』

船越博著、創土社 / 1,200円+税

『ギリシャ悲劇ノート』

丹下和彦著、白水社 / 2,400円+税

『「内」と「外」の言語学』

坪本篤朗ほか編、澤田治美ほか執筆、開拓社 / 5,200円+税

読書のページ

Books are for all

図書館学術情報センターのホームページ(下記URL)に「読書のページ」が開設された。右下のリンク=写真=をクリックすると、盛りだくさんのコンテンツが登場する。



さて、担当者からはさっそくイベントのPR。
◆募集! 読書アンケート◆ 「あの感動や楽しさを誰かに伝えたい」と思う方、誰かさんに薦めたい1冊を募集しています。募集期間など詳細は「読書のページ」をご覧ください。過去のアンケート結果も掲載しています。
<http://opac.kansai-gaidai.ac.jp/library/index.html>

同窓会設立準備委員、サンスター前社長

安岡 重人 さん

外国語学部英米語学科卒(1973年)

旬な人

外大このひと



卒業後、サンスターに入社。以来、自らが「会社人間」だった、というほど仕事に徹した。母校を顧みる余裕はなかったが、2005年、中宮のキャリアセンターから依頼された「トップインタビュー」で、本学と再会した。翌年、大学院博士課程の実学コース・リレー講義で、長い海外駐在経験に基づいた外国語修

「感無量です」。熱望していた同窓会の設立を目前にして、かみしめるようにつぶやいた。母校を振り返れば、入学と同時に学生運動が始まった。授業を受けるのもままならなかったが、学生結婚、留学、アルバイト、長男の誕生と、濃密な学生生活を送った。学生、主人、社会人として責任を全うしなければならなかった経験は、その後のハングリー精神と少々のことではへこたれない強さを身につけた、という。

卒業後、サンスターに入社。以来、自らが「会社人間」だった、というほど仕事に徹した。母校を顧みる余裕はなかったが、2005年、中宮のキャリアセンターから依頼された「トップインタビュー」で、本学と再会した。翌年、大学院博士課程の実学コース・リレー講義で、長い海外駐在経験に基づいた外国語修

「感無量です」。熱望していた同窓会の設立を目前にして、かみしめるようにつぶやいた。母校を振り返れば、入学と同時に学生運動が始まった。授業を受けるのもままならなかったが、学生結婚、留学、アルバイト、長男の誕生と、濃密な学生生活を送った。学生、主人、社会人として責任を全うしなければならなかった経験は、その後のハングリー精神と少々のことではへこたれない強さを身につけた、という。

この5年間、母校を見続けてきた。約13000人の在校生、多くの教授、講師陣、留学ネットワークの充実ぶりなど、その発展に目を見はる。「グローバル化は企業だけでなく、アカデミーの世界にも影響が大きい。本学は、コミュニケーションのベースとなる言語を教える強み、さらに『ASEAN+3』大学コンソーシアムも今後の成長戦略になる」と、熱く語る。

得法などを講義。次いで同年10月から始まった「トップ講演会」に初代講師として招かれた。08年10月には、評議員に任命され、大学運営にも携わるようになった。

LIBRARY NEWS



図書館ニュース



LIBRARY NEWS

私の押し

『赤頭中ちゃん気をつけて』

外国語学部教授 井尻 直志



庄司 薫著 / 中公文庫 620円

時代は、高度成長期末の1969年。高校3年生の薫クンには幼なじみのガ

著者に聞く

『プリミティブイズム』と『プリミティブイズム』

(三栄社 / 2800円+税)

国際言語学部教授 大久保 恭子

タイトルに英語とフランス語が並べられていますね。

大久保 二つが同じなのか、異なっているのか、それが最初の「？」でした。2000年ごろから調べ始め、別物であるという結論に達しました。本の帯にも「これは同語反復ではない」というたてがあります。基本的にはフランスとアメリカの他者観の違いなのです。フランスでは20世紀初めの芸術運動の状況から、アフリカの造形に美を認め、



そこからヨーロッパの芸術を立て直そうとしました。プリミティブイズムには、そうした意味合いが含まれています。一方のアメリカでは、ヨーロッパとの違いを明確にし、アイデンティティを確立するという意図から、アフリカや南太平洋、南北アメリカのプリミティブアートとモダンアートの類縁性を見ていこうとしました。

マチスやゴッダンの絵などの写真が多く掲載されていますね。

大久保 アフリカのアートに最初に注目したマチスやタヒチに移り住んだゴ

ールフレンド、由美ちゃんがいます。「舌かんで死んじゃいたい」が口癖の由美ちゃんに振り回されながらも、知性と恥じらいを大事にする薫クンは「ぼくは海のような男になる。大きなやさしい海のような男に」と、それこそ「舌かんで死にたくない」ような恥ずかしいセリフを吐きながら、真面目に頑張っています。

が、それによって、物語の中の現実がわからぬ虚構性を帯びて来ます。現実と虚構の境界が曖昧なヴァーチャル・リアリティーにあふれ、リアリティーが希薄となった今の社会の出発点が、70年代の初めにあったことをこの小説手法は告げていると思います。

発表当時ベストセラーになり、芥川賞を受賞したこの小説には続編があり、『白鳥の歌なんか聞えない』『さよなら怪傑黒頭巾』『ぼくの大好きな青髭』の赤、白、黒、青の4部作になっています。主人公が人生に挫折しそうになり、社会にもまれながら成長していく姿が活写されています。併せて読んで下さい。

どのように読んでほしいですか。

大久保 私たちは、異なる文化と接する機会が多くなっています。インターネットを使えば、一瞬のうちに繋がります。異なる文化にどのように接するかは、他者をどう理解するにかかっています。この本では、20世紀初めに西洋が他の文明に向かい合った歴史を取り上げましたが、それは今の私たちに教訓となるはずですよ。

編集後記

秋深まる中、4年ぶりのホームカミングデーが11月22日に開かれます。そこで大型連載「ひと燦々」の最終回は、本学で学んだ各界の人々に寄せてもらったメッセージで飾ることにしました。まさに多士済々。在学中の体験も本学への思いもさまざまです。共通点は、社会に出てからも夢や目標を実現すべく努力を続けていること。在学生のみならず、本や学問、人との出会いを通じて、一生追い続けられる夢を見つけよう。

(荒)